

項目	頁	行	修正前(第53回流域委員会 資料3-1)	修正後(第53回流域委員会 資料3-1からの修正)
1 流域及び河川の概要				
(4) 気候・気象	2	25	また、流域内における近年の降水量は変動が大きく、過去約30年間の短時間強雨の発生頻度も増加傾向にある。	また、流域内における過去約30年間での集中豪雨の発生頻度は増加傾向が見られ、特に名塩観測所での時間50mm以上の豪雨の発生頻度は比較的高い。
(7) 治水事業の沿革	5	8	…流量を記録し、下流部の未整備区間において、橋梁の流出や床上・床下浸水などの被害が発生したが、…	…流量を記録し、下流部の西宮市名塩木之元(リバーサイド住宅)等未整備区間において、橋梁の流失やの床上・床下浸水などの被害が発生したが、…。
(9) 水質	5	32	大橋から仁川合流点までが水道水として利用可能とされるB類型	大橋から仁川合流点までが水道用水として利用可能とされるB類型
(11) 内水面漁業	6	15	武庫川においては、仁川合流点から青野川合流点までの本川区間及び羽束川の上流部に漁業権が設定されている。	武庫川においては、甲武橋下流付近から広野橋上流付近までの本川区間及び羽束川等の支川に漁業権が設定されている。
	6	18	アユ漁については、生瀬から武田尾にかけて、戦前までは良好な漁場であったが、今は漁獲高が大きく減少している。昭和30年頃までは天然アユの捕獲を主体としていたが、それ以降は放流による漁業だけとなっている。	アユ漁について昭和50年代半ばまでは、生瀬から武田尾にかけて、良好な漁場であった。昭和24年頃までは天然アユの捕獲を主体としていた記録があるが、現在は漁獲高が大きく減少し、放流による漁業だけとなっている。
2 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針				
前文	7	23	…環境にかかわる施策を展開するとともに、流域の社会経済情勢の変化に…	…環境にかかわる施策を展開する。加えて、流域の社会経済情勢の変化に…
	7	28	そのため、想定を超える事態においても人的被害の回避・軽減を図るとともに、ライフラインや緊急輸送路等守るべき機能を明確にして防御することにより県民生活や社会経済活動への深刻なダメージを回避することを目標として…	そのため、想定を超える事態においても、第1に人的被害の回避・軽減を図ること、第2にライフライン等守るべき機能を明確にして防御することにより県民生活や社会経済活動への深刻なダメージを回避することを目標として…
	7	34	…目標を明確にして段階的な整備を進める。	…目標を明確にして「参画と協働」のもと段階的な整備を進める。
(1) 洪水、高潮などによる災害の発生の防止又は軽減に関する事項				
①河川対策	8	24	更には上下流バランスに十分配慮しながら、洪水調節施設による洪水調節や	更には本支川及び上下流の治水バランスに十分配慮しながら、洪水調節施設の整備や
②流域対策	9	11	水田の持つ多面的機能についても、農業生産に配慮し、関係機関や農業従事者との連携の下、保全、向上が図られるよう努めるとともに、超過洪水対策として、雨水貯留機能が確保されるよう取り組んでいく。 その他、関係機関と連携し、各戸貯留等の超過洪水対策に積極的に取り組むとともに、これら流域対策の取り組みに関する啓発活動を流域関係市等と連携して推進し、流域全体の防災力向上に努める。 また流域対策の推進にあたっては、必要な制度整備に向け、関係機関と調整を図る。	水田の持つ多面的機能についても、農業生産に配慮し、関係機関や農業従事者との連携の下、保全、向上が図られるよう努める。また、水田の貯留機能については、流出抑制効果の発現が出水期を通じて期待できず限定的であることから、各戸貯留等と同様に付加的な効果が確保されるよう取り組んでいく。 加えて、これら流域対策の取り組みに関する啓発活動を流域関係市等と連携して推進し、流域全体の防災力向上に努める。 これらのことを踏まえ、流域対策の効率的な推進にあたっては、必要な制度整備に向け、関係機関と調整を図る。
(3) 河川環境の整備と保全に関する事項				
②動植物の生活環境の保全・再生	11	34	産卵や移動など、生息場として利用されている瀬、淵の保全に努める。	産卵や生息の場として利用されている瀬、淵の保全や、移動の連続性の向上に努める。
(4) 河川の維持管理・流域連携				
②流域連携	13	6	武庫川の多様な自然環境を教材にした環境教育等に	武庫川の多様な自然環境を教材にした環境学習等に